

あなたの街の
ドクターが
アドバイス



糖尿病の治療のススメ

自覚症状に乏しい初期の糖尿病
合併症を避けるためにも受診を

厚生労働省による平成24年の国民健康栄養調査において、糖尿病患者は約950万人、糖尿病予備軍は約1100万人と推計されています。国民の約10人に1人は患者および予備軍であり、しかも糖尿病患者のうち35%の人は、治療を受けていませんでした。

糖尿病は初期状態として自覚症状に乏しい病気ですが、さまざまな合併症が徐々に進行し、体に重大な影響を及ぼすようになります。

糖尿病の3大合併症と言われるものは、糖尿病網膜症、糖尿病腎症、糖尿病神経障害で、自覚できるほど症状が進むと、手遅れになってしまうことがほとんどです。

糖尿病が原因の視覚障害の発生は年間約3000人で、糖尿病による腎臓障害で人工透析を始める人は、年間約1万5000人とされています。

さらに、糖尿病による食後の高血糖状態は、動脈硬化を発症・進展しやすくなるため、脳梗塞や脳出血といった脳血管障害や、心筋梗塞や狭心症といった冠動脈疾患などの危険度を高めます。一般的に糖尿病に合併する脳血管障害や冠動脈疾患は、予後が不良であり死亡率も高く、糖尿病患者の冠動脈疾患の発症リスクは、非糖尿病患者の約2〜4倍となっています。

糖尿病における脳血管障害の特徴は、脳出血やくも膜下出血よりも、脳梗塞の発症が多いとされています。また、九州大学と久山町の共同事業でわが国を代表する生活習慣病の疫学研究である「久山町研究」では、糖尿病患者は、非糖尿病患者の約3倍の脳梗塞の発症リスクがあることが報告されています。

糖尿病の治療では、生活を改善し、適度な運動を行い、必要に応じて薬物療法を導入し、合併症が進行しないように良好な血糖コントロールを目指すことで、糖尿病と上手に付き合っていくことが大事です。

健診等で血糖の高値や尿糖の陽性、耐糖能異常を指摘されたことがある人は、内科や糖尿病内科への受診をお勧めします。

脳血管障害や冠動脈疾患で病院に通院している人も、主治医に相談して糖尿病のチェックを時々してみてもいいでしょうか？

お話ししてくださいました先生



札幌宮の沢脳神経外科病院
糖尿病内科

三島 慎也 先生

平成10年福岡大学医学部卒業。北海道大学病院内科ローテーションおよび第二内科、市内病院、地方病院勤務を経て、平成24年より現職。日本糖尿病学会認定内科医、日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本糖尿病協会療養指導医